



No.335

歴史の学習は暗記ではない

この文章を読んでいただいている方の中にも、歴史を学ぶことを苦手としている人たちはきつといることだろう。確かに用語や人物名、年号などを覚えることは大変なことだし、意味のあることなのかと考えてしまいがちだ。過去から学ぶものなんかはないのだと自分に言い聞かせて、学ぶことから逃避する理由にしている人もいることだろう。

ただ、ちよつと考えてほしいのだが、今起こっている出来事の原因は過去にあったはずで、だからこそ、今起きたわけだ。こう考えていくと、過去を知っておくことはこれからを過こしていく上で損ではないと思わないだろうか。更に加えると、過去の事実や事件などの発理由を知らなければ、そこから学んでこれから賢く生きていくことができると私は思うのだが。歴史を学ぶ意義とはこのことだろう。



さて、歴史を学ぶことを苦手としている人ほど、丸暗記しようとする傾向があるようだ。学習範囲や内容にもよるが、まず無理と言うほかない。膨大な情報量を丸暗記できるほど、我々人間の脳は器用にできていない。桁数の多い数

字の羅列を丸暗記できないのと同じことだ。

では一体どうすればいいのか。

そもそも学ぶべき歴史上の出来事には発生した理由があるのだから、その理由の理解を進めていくことが最も重要である。それらはバトンリレーのように現在の出来事まで継続している。「〇〇が起きたから、その結果△△が起き、そこから□□を生み出した」といった具合である。一般的に「流れ」と言われているものだ。例えば私は第二次大戦までのおおまかな流れを次のように理解している。「産業革命↓帝国主義↓第一次大戦↓アメリカの発展↓世界恐慌↓ファシズムの台頭↓第二次大戦」この流れがいわば樹木の幹にあたるもので、用語や人物名、年号などは枝葉にあたるものだ。幹がしっかりとっていないと枝葉はすぐに落ちてしまう。流れを把握せずに用語だけを覚えようとしても忘れてしまうということだ。言い換えれば、流れを把握しておけば用語などは忘れにくくなる。だから、歴史を学ぶ上では、その「流れ」を把握し、それぞれの出来事をつなげている原因と結果の理解が重要になってくるのである。



歴史の学び方は暗記ではなく理解することである。そうすることでテストや入試に関しては記述問題や論述問題にも対応できるし、原因や理由を考えることによつて、これから先のことを考えて行動できるはずだ。「歴史から学べ」と先人は名言を残している。

(山崎)

夢をつかむひとたち①



●県立幕張総合高等学校シンフォニックオーケストラ部(以下幕総SO)が、二度目となる、全日本吹奏楽コンクール全国大会への出場を果たした。千葉県の高校が全国大会へ出場するためには、千葉・神奈川・茨城・栃木で構成される東関東大会を突破しなければならぬ。梓は三つのみ。しかも、東関東は長年、それぞれ全国トップレベルの実力を持つ、市立柏、市立習志野、常総学院(茨城)の三校の独壇場であり、「東関東を勝ち抜くのは全国大会で金賞を取るより難しい」と比喻されるほどの激戦区である。

●その扉を幕総SOが初めてこじ開けたのは2年前だった。さらに初出場で金賞の快挙。まさに、比喻を地で行く快進撃がひととき喜びしかなかったのは、部に創学舎の生徒が在籍していたからだ。

●Aさんは、中学生の時から東京まで個人レッスンに通うほど楽器が好きで、将来を音楽で、と考えているようだった。だが、そんな彼女から、吹奏楽の強豪である幕張総合高校を受けたいと相談された時、「気持ちにはわかるが、考え直せ。」と言わざるを得なかった。何しろ、夢と現実の勉強の様子のあいだにはかなりギャップがあったし、模試の判定も相当厳しかった。また、幕張総合は人気(倍率)も高いため、たとえ何とか偏差値が近づいたとしても、とても樂觀視

はできない。加えて、彼女は、思い切り偏差値を下げた私立高校しか併願先を取らなかった。幕張総合に合格しなかったら、部活は頑張るだろうが、勉強しなくなるだろう、と私は感じた。今思えば、自ら退路を断つたのか、単に無謀だったのか……。どちらにしてもここから彼女の戦いが始まった。勿論、模試の判定が急になるわけもなかったし、勉強量もまだまだ足りない。周りの我々がヤキモキしていた。しかし、彼女の中ではブレなかったのだ、おそらく、「受かりたい」―その思いが。

●結果、まさかの前期選抜での合格! 「これで人生の運、使ってしまったんじゃないか」私は半分本気で言った。それほどの鮮やかな逆転満塁ホームランだった。

●しかも、入学したその年に全国大会初出場である。君の運は無敵大なのか、とツツコミを入れたくなるほどだ。

●夢の幕総ライフはかなりきつかったようだ。練習は当然ハード。レギュラー争いだつてある。しかし、そんな中でも彼女は創学舎に来ていた。たまに「明日試験なんです。」と言つて質問に来るので、あきれさせてくれるが、普段の多忙ぶりをしていると、よくぞ両立してきたと思う。そして、高校最後の年にまたも全国大会出場。私も吹奏楽をやっていたからわかるが、こんな幸福を味わえるのは一握りの人々だけなのである。本当におめでとう。

●夢をつかむ、ということとは、夢をもっているひとだけの特権でもある。なぜならば、夢も憧

れも持っていない人には、その在りかすら見つけられないのだから(自戒を込めています)。
●夢をつかんだ人をもう一人。弱気な創学舎の生徒という印象から打って変わり、今やドイツ・リーグやサッカー日本代表チームの一員として活躍するSくんのこと。が、紙面の都合でそれはまたの機会に。

●さらに、最近、長く陽の当たらなかった時期を経て、ブレイクしている芸人さんが大変多く、そこでも夢について教えられることがある。が、それもまたの機会に。

●追記：全日本吹奏楽コンクールは今年27日に名古屋で開催されます。出場校を見ると、例年はない強豪校揃いの大会です。幕総SOの健闘を祈ります。(関)

好きこそものの上手なれ

私は、十数年続けているものがある。それは、ダーツだ。ダーツというただの遊びだと考えている人が多いと思うが、最近では国際大会が開かれるほどのレベルとしたスポーツだ。その歴史は深く、起源は十四世紀、イギリスで百年戦争が行われている頃、兵士たちが酒場で樽にむかって矢を放ったのが始まりとされている。



そんな歴史あるダーツに出会ったのは、私が大学生のときだ。アルバイト先の先輩から誘われ、近くのダーツバーに行ったのが始めるきっかけだった。

そもそもダーツというのは、3本の矢を的にむかって投げ、刺さった箇所の数字が点数となり、相手と点数を競い合っていくものだ。説明だけ聞けば、ものすごくシンプルで誰にでもできそうなものだが、聞くのとやるのでは大違いだった。最初はなかなか的に刺さらず、刺さったとしても狙ったところには全くと言っていいほどいかなかった。正直初めは、かなり甘く見ている。「こんな簡単だろ」と。しかし、暫くはスコアが伸びず、やっついて楽しくなかった。だから、だいたいこの段階で挫折し、すぐやめてしまうのだと思う。

実際、私も何度かやめようと思った。しかし、仲間と誰が一番早くうまくなるか競い合っていたので、負けず嫌いの血が騒ぎ、ほぼ毎日練習に明け暮れた。今思うと、学生時代の部活より熱心に練習していたと思う。ただ、ダーツというものは(ダーツに限らずスポーツ全般、そうなのだが)練習すればやはり上手くなっていくもの。人間は単純な生き物で、上手くなっていくとそれ自体が好きになってくる。私もそうだった。そして好きになると、練習自体が楽しくなり、さらに練習量が増え、それに比例するようにならなっていく。我慢ではないが、ピーク時の私は、大会に出場した経験のある上手い人と対等に渡り合えるぐらい成長していたのだ。(やはり我慢になってしまった)これこそ「好きこそものの上手なれ」である。

この経験により、私はものの見方が変わった。それまでは、才能で全てが決まると思っていた。

しかし、今はそうではなく、どれだけ好きになれるかで全ては決まるのだと考えている。だからこそ、皆さんには好きなことがあるならば、誰にも負けないぐらい努力をし、それを極めてもらいたいと思う。(矢上)

親が口うるさい理由⑤

●親自身がある程度の学歴を有している、一族に高学歴が多いなどの事情があれば、自分の子どもへの期待度も高くなる。これは、勉強が苦手な子どもにとっては非常に辛いことだ。「うちの家族は、みんな優秀だ。お兄ちゃんだって、お姉ちゃんだって、いい大学に入っている。お前もできないはずはない。」親戚の子はみんな国立よ。あなただけそんなところを受けて、恥ずかしいわ。「MARCH以上じゃないと受けさせないからな。」塾に予先が向くときもある。「夫は東〇、私は慶〇です。小さい時から、この子の教育には力を入れてきました。それなのに、こんな高校にしかな行けないんですか?」

●ある程度の学歴を有している、或いは一族に高学歴が多いという親のすべてが子どもにこういうことを言っているわけではない。しかし、高三だけに限っても、毎年何人かはいらつしやるようだ。気持ちには分からなくはない。だが、こうしたセリフは、勉強が苦手という子どもにはつらいことだ。親がいくら自分の子どもを大事に考えていても、子どもの側からすれば、自分の全人格が否定された気になる。その子には

その子の良い所がある。得手不得手もある。学歴はあっても、子供がきちんと勉強するようにはからう能力や心配りが親の側にあつたのかということも考えなければならぬ。こういう場合、親と話し合つて考え方を変えていただくことは難しい。ただ、こういう環境にいたら、生徒は是非相談してほしい。

●この記事もそろそろ終わり。もう一度親が口うるさい理由を確認しておきたい。親はきみのことが大事で、きみが健康で、きみが成長し、活躍し、安定した人生へと進むのをただ応援したいと思うのである。特別な才能があれば、多少のリスクも考慮しつつ、それを伸ばしてあげたい。人間としても、友人を多く持ち、周りから大事にされ、豊かな人間性を備えてほしいのである。そして、混沌とした時代の中で生きていくのが不利にならないようある程度の学歴を得てほしい。そのために勉強も受験もがんばってほしい。そう思っているのだ。

●キミは小学生か中学生、高校生かもしれない。キミはとにかく親が思っていることを理解はすること。そのうえで、キミが自分の意思で自分の道を進むのだ。対立はあつてよい。困ったら悩めばいい。そして私たちに相談。さあ、がんばろう。(小林(健))



▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。